

健康と光線

生物の誕生と進化

46億年の地球の歴史の中で、生物は太陽に依存して誕生し、太陽の恵みで進化して今があることに疑問の余地はありません。そもそも生物の起源は、約35億年前頃に太陽光線などのエネルギーを利用して合成された有機物が進化して、嫌気性従属栄養生物と呼ばれる原始生物が誕生したとされています。

この原始生物が進化して、8億年前頃には太陽光線を吸収して水と二酸化炭素（炭酸ガス）からブドウ糖（澱粉）と酸素を供給し、窒素を同化してアミノ酸（蛋白質）を合成する独立栄養生物、すなわち光合成を営む植物が登場します。この環境の変化が地球のオゾン層を形成し、酸素がなければ生きられない好気性生物、つまり五千万種を越えると言われる生物が見事な調和の世界を築いたのです。

カルシウムと生命活動

最初の生物はカルシウムを豊

富に含む海で誕生したと考えられています。ちなみに海水のカルシウム濃度は人の血中濃度の4、5倍ですが、生物はこのような環境でカルシウムを生命活動に利用する仕組みを発達させて進化しました。その生物がカルシウムを海水の十分の一から百分の一しか含まない河川やカルシウムを食物から摂るしかない地上で生息するためには、カルシウム代謝を調節するホルモン系とカルシウムを備蓄し必要に応じて供給する骨を必要としたのです。

ここでビタミンDが中心的役割を果たすのですが、地上の生物がビタミンDを補う大役は、自然と共生した暮らしをしていれば必ず浴びる太陽に委ねられたのです。換言するならば、文明を発達させて自然を遠ざけ、太陽の恵みをあなどり、生物は太

健康をつくる

ーサナモアは太陽に替わる救世主ー

サナモア光線協会
サナモア中央診療所

医学博士 宇都宮 光明

陽の恩寵があって生きているという真理をないがしろにして、生命活動は成り立たないのです。情報伝達とカルシウム分布の恒常性

近時、IT革命とか情報化社会のカルシウムの濃度差は縮小しますが、細胞膜にはカルシウムを汲み出すカルシウムポンプと呼ばれる機能があり、これを駆使してカルシウムの濃度差を回復し、次の刺激に対応します。

カルシウム

パラドックスと現代病

人工化学物質のフロンがオゾン層を破壊することに関連して、太陽光線についても毀誉褒貶、さまざまな世評があります。しかし光線を浴びないとビタミンDが不足しカルシウムの吸収を阻害するため、骨からカルシウ

ムを補給するしかありません。この際、骨から過剰なカルシウムが溶け出るため、骨粗鬆症を増悪させ、余分なカルシウムは細胞内に入りカルシウム分布の恒常性を失わせます。このようにカルシウムが不足すると細胞内のカルシウム濃度は逆に上昇する、不合理と思われる現象がカルシウムパラドックスで、情報が伝わりにくくなります。その結果、生理機能に乱れを生じて抵抗力を失い、ガンやアレルギーや生活習慣病のような現代病の要因になります。

サナモアは

太陽に替わる救世主

今もオゾン層の破壊が終息する気配はありません。そのため太陽光線の質の変化が危惧されていますが、生物に太陽の広大無辺な恵みは欠かせません。幸いサナモアはオゾン層の破壊とは無縁な自然の清純な太陽に替わる安心できる光線を放射します。太陽に替わるサナモアでカルシウムパラドックスを未然に防いで保健、治病に役立ててください。

夏季臨時休業のお知らせ！

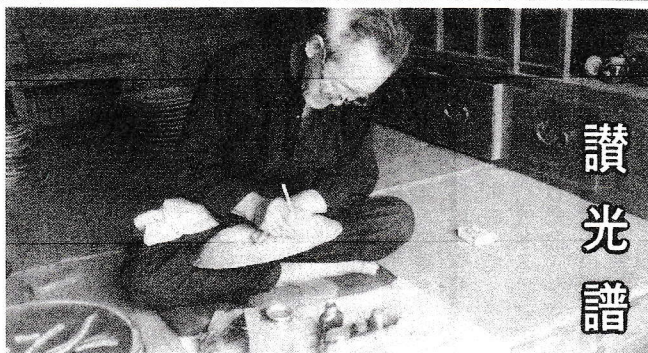
八月十四日(月)、十五日(火)の両日臨時休業致しますので、よろしくお願い申し上げます。

(株)東京光線療法研究所



宇都宮義真撮影

「陶芸家」



讃光譜



▽昭和15年1月に用紙の統制でやむなく休刊した「光と熱」を昭和25年1月に「健康と光線」と改題して復刊することにした。

▽私は昭和19年に45才にして一片の召集令状で徴兵され、当時の風習にしたがって一度は思い出多い光線界とも永遠の決別を誓ったのであるが、昭和21年の暮れも押し詰まってから故国に復員し、再び光線療法の普及に全力を尽くす決意をしたのである。

▽光線療法には光線療法に独自の世界がある。その原点は光線が万物を生じた要であり、生命現象に深く関わっていることである。すなわち光線には健全な発育に欠くことのできない作用や生命力を高める作用があり、不足すると直接病気の原因となり、また病人の体力を低下させて回復力を弱めるのである。

▽このように光線療法は生命力を高めることに重きを置く療法であり、病気の治療を目的に開発された薬物療法や外科療法とは出発点から觀念を異にする。それ故、健康者が用いて益々健康になり、病気を未然に予防し、病者が用いれば真に病気に勝つ基礎体力、

換言すれば自然に備わった治療力を高める治療法なのである。

▽世の中には健康ではないが病気が診断されるほど悪くない人が案外多い。健康でなければ社会で思う存分働けないが、病名がつくまでは患者の訴えは無視され、病院では病気ではないと相手にして貰えない。つまり疑似病人であるが、間もなく真性病人になる運命の人々である。

▽何となく体がだるい、頭が重い、根気が続かない、食欲がない、動悸息切れがする、疲れ易い、このような病気の前兆かも知れない時期が実は最も大切なのである。火事でも発見が早ければバケツ一杯の水で消せるが、大火になるとあちこちから消防自動車駆けつけても燃えるだけは燃えてしまうではないか。

▽この疑似病人の時期に光線療法をすれば甚だ有効である。既に述べたように光線療法は生命力を高める自然療法であるから、必ずしも病名は必要でない。光線療法で生命力を高め、体の異常を正すことは万病に有効なのである。▽そんなに良い療法ならどうして病院で採用しないのか、よ

く受ける質問である。医師は良い療法なら総べて応用するものと思っているらしい。

▽医師は病気を診断し、薬物療法や外科療法を行う専門家としての教育は受けるが、専門以外の分野、例えば鍼、灸、漢方薬のような治療法を始め巷で広く用いられているいわゆる医業類似行為については

これからは 予防医学

宇都宮 義真

教育を受けないのが通例である。このような医師に光線療法のことを聞いても到底満足な答えは得られないのは已むを得ない。

▽医学は進歩したと言われる一方で、神経痛やリウマチの患者が大病院を怨めしそうに眺めて鍼や灸や温泉や神様を求めて右往左往しているのが実

情である。彼らがなぜ大病院に行かないのか、彼らは経験者で現実主義者だからである。

▽ある医学博士が感ずるところがあつて、リウマチの光線療法をするようになった。数年間て姿を消すような新薬より、数千年の歴史のある光線療法の方が信ずるに足るというのである。温故知新というが、光線療法は太古の日光療法から今日の人工光線療法まで途切れることなく続いている。つまり最も古い療法でありながら最も新しい療法でもある。

▽平和な時に平和の有難さが分からないように、健康な時に健康の有難さは分からぬものである。しかし不治の病と宣告されてから、医学の無力や無能を悔やんでも始まらない。▽あなたを悔やんでも始まらない。それには健康を増進し病気を予防することが出来る光線療法を、これからの予防医学に活用されんことを切望して止まない。

昭和25年から昭和30年の間に発行した「健康と光線」に記述された「是非々々」を要約した。

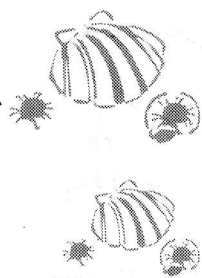


サナモア光線治療院九月に開院

院長 医学博士 宇都宮 正範

サナモア光線協会では、サナモア光線協会ビルの竣工を待ち、本年九月にサナモア光線協会附属サナモア光線治療院を開院する予定であります。治療院は、一人でも多くの方に光線療法を体験して頂き、その良さ、効果を実感してもらうことを目的としており、近い将来、必ずサナモア光線療法の普及につながるものと考えています。光線療法を体験されたことのない方はもちろんのこと、すでに治療器をお持ちで在宅療法を行っている方も、是非、一度、足をお運び下さい。

なお、しばらくの間、皆様にはご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、ご容赦の程お願い申し上げます。



サナモア光線治療院

の概要

開院時間

午前十時から十二時三十分
午後一時三十分から五時三十分
日曜、祭日は休院

交通案内

主な業務

- ① ルーフ式マルチ・アーク療法による光線治療（約一時間）
 - ② サナモア光線療法を含めた医療相談
 - ③ ごく簡単な検査
- なお、光線治療器、カーボン等の販売は致しませんので、ご購入の際は、これまで通り（株）東京光線療法研究所までお越し下さい。

治療の予約

待ち時間を軽減するため予約制としますので、あらかじめ電話での御予約をお願い致します。

料金

治療代金 五千元
初診料（初回診察時） 五千元
医療相談 五千元

交通案内

- ① 目黒駅よりお越しの場合
 徒歩：目黒駅「西口」から六分。権之助坂を下り目黒川手前の信号を右に入り約100m進む。
 バス：目黒駅「西口」より乗車。「権之助坂」バス停下車徒歩一分。バス停手前の信号にて目黒通りを横断しそのま約100m進む。

② お車でお越しの場合

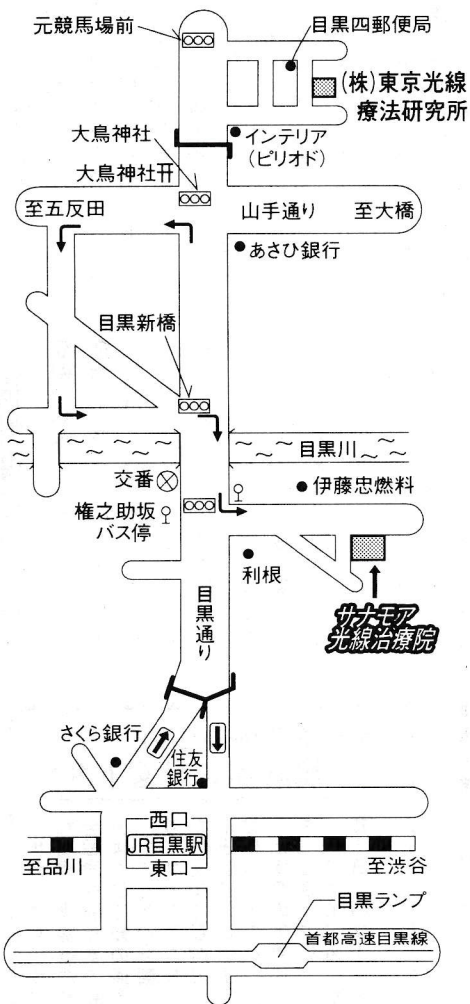
大鳥神社交差点（山手通り）方面より
目黒駅方向に進行し、目黒川を渡り最初の信号を左折し約100m直進する。
首都高速目黒ランプ、白金方面より
大鳥神社交差点を左折し山手通りの側道を進み突き当たりを左折、約200m進み目黒川沿いの道を再び左折し、目黒新橋交差点を右折し目黒通りに出たら最初の信号を左折して約100m直進する。
（治療院へ入る道が右折不可のため、矢印のように転回して下さい）

住所

東京都目黒区目黒1-23-11
サナモア光線治療院

電話

TEL (03) 5759-1371
FAX (03) 5759-1372
（開院後に開通します）

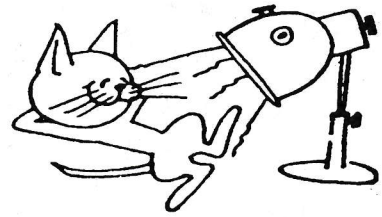


☆突発性難聴

症例 40歳 男性 会社員

症状 一年前から会社での仕事の負担が増え、心身の疲労を日増しに強く感じるようになっていた。三か月前に突然、左耳の閉塞感を感じ、音が全く聞こえなくなり、耳鳴も認めたため、近くの耳鼻科を受診。精神的ストレスからくる突発性難聴と診断され、約一週間治療を受けたが症状は改善しなかった。その頃、サナモア愛用者である知人に、難聴を光線療法で克服した友人の体験談を聞き、治療目的にて来所された。

療法経過 治療は集光器を用いBDカーボンを使用し、左耳耳



— 治 験 例 報 告 —

孔部を30分、耳後部を20分、右耳を10分、後頭部を20分、顔面を10分、喉を10分照射。さらに、ABカーボンを使用して、腹部を10分、腰部を10分、膝部を10分、足裏を10分照射した。また自宅での光線治療は、同様の方法で、なるべく一日二回行うように指示した。三日後には、左耳で電話の音が聞こえ始め、一週間後には、耳鳴がほとんど気にならなくなり、普通の話し声が聞き取れるようになった。その後の経過は良好で、現在、聴力はほぼ回復し、普通に日常生活を行っている。

神戸市 ウエノ光線療研
上野 健太郎氏報告

TEL0七八—三三—一三五八

☆慢性腎不全にて

血液透析

症例 47歳 男性 自由業

症状 五年前に全身倦怠感、痙攣、視力障害などの症状で検査を受けたところ、血糖値が高く、糖尿病による慢性腎不全と診断された。以後、血液透析を受けていたが、全身状態は悪く体調がすぐれないため、入退院を繰り返していたが、知人に光線療法を紹介され、治療目的にて来

☆慢性関節リウマチ

症例 56歳 女性

症状 患者の兄弟が二十数年来のサナモア愛用者。約一年前、起床時に手がこわばり、手指の関節が腫れて痛く、物を上手に握れないとのことで、病院を受診した。そこで、慢性関節リウマチと診断され、以来、投薬を受け続けたが、症状は一向に良くならないため、兄と相談し、治療目的にて来所された。患者には、光線療法を行うと一時的に痛みが増強する可能性があること(陽性反応)を十分に説明し、納得されたため光線治療を開始した。

療法経過

治療はABカーボンを使用し、基本照射部位(腹部、背部、膝部、足裏)に各20分照射し、手指の関節はBCカーボンにて、20分から30分照射する

ことを指示した。十日後に、痛みがやや強くなったのでどうしたら良いか、電話で相談してき

たため、BBカーボンで痛みが止まるまで照射するように指示。痛みが軽いつきも、BCカーボンで毎日照射するように指示した。八か月後に再び来所された際には、朝の手のこわばりは若干あるものの、腫れや痛みは軽快し、仕事も再開したとのこと

で、表情はとても明るくなっていた。慢性関節リウマチは経過が長いので、今後も、光線療法を継続するように促した。

川崎市 東京光線治療院

海渡 一二三氏報告

TEL0四四—七二—一五〇六七

福岡県春日市 育美健康光線療研

山崎 いく子氏報告

TEL0九二—八—五八一—二〇三九
五七二—一五七三

サナモアカーボンの類似品にご注意下さい

サナモアA、B、C、Dカーボンは、その使用法を書いた著書「光線療法学」ともども愛用者各位の御信頼を頂き、全国津々浦々まで高い評価を受けておりますことは、皆様方よくご存知の通りであります。

ところが他社製カーボンに「光線療法学」をセッとしたり、サナモアABCDと効果が同じという根拠もないような文句で互換表を添付して販売している業者がいます。もとより、このような道理にもとる行為をする者が何時の世にもいますが、当研究所としては他社製カーボンを使用した場合の効果について一切の責任はもてませんので、御注意下さい。

(サナモアカーボンには、製造元イビデン株式会社の商標「B」のマークが必ずついています。)

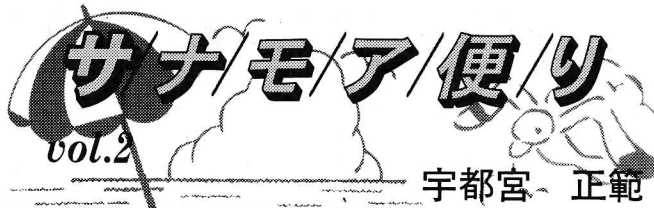
東京光線療法研究所

サナモア光線治療院の

完成間近

前号で紹介したサナモア光線治療院の建設工事も順調に進み、四月二十日からは鉄骨の組み立て作業が始まり建物の外観が姿を現した。隣接する住宅より一回り大きいその外観は、前が学校のグラウンドのためか一際目立っており、完成した際には、目黒通りから十分見渡せることと思われる。

月竣工、九月開院に向け、これから急ピッチで進む予定であるが、この治療院はサナモア光線療法普及のための第一歩であり、完成が待ち遠しい気持ちである。(写真上)



宇都宮 正範

サナモアカウンセラー養成講座を東京にて

開講

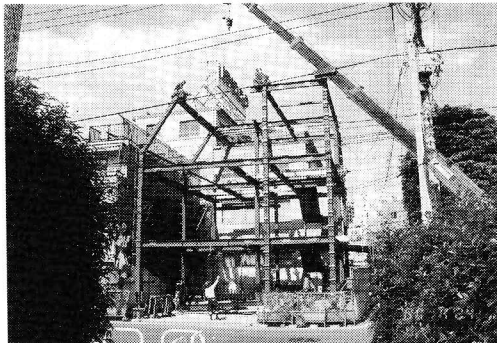
四月六日(木)から三日間の日程で、サナモアカウンセラー養成講座を東京本部において開講した。参加は男性一名、女性二名の合計三名で、地方から泊まりがけで参加頂いた方もいて、無事三日間の講座を終えることができた。当協会が養成した初めてのカウンセラー三名となるが、全員、光線療法の良さを自身で体験されている方なので、

で、サナモア光線療法普及の成果が期待される。

「光と熱研究会」

発足

サナモア光線協会では、サナモア光線治療師やサナモアカウンセラーが光線療法についての研鑽を積み、会員相互の連携を深めることを目的とした研究会を発足した。現在のところ、会場の都合で、参加者は今回養成した治療師とカウンセラーのみとしているが、サナモア光線協会ビルが完成した暁には、広く参加を呼びかける予定でいる。



建設中の治療院



研究会参加者



治療室にて

◆ 募 集 ◆

サナモア光線治療師
サナモアカウンセラー

当協会の趣意に賛同され、サナモア光線療法の普及にご協力頂ける方、治療院の開業を検討なさりたい方は、サナモア光線協会までお問い合わせください

〒153-0063
東京都目黒区目黒4-6-18
TEL (03) 3793-5281
3712-5322

研究会の内容は、光線療法や医療に関連した話題の講演、治療師、カウンセラーの治療経験や

近況報告が中心となるが、会員の方々が気兼ねなく集まれる会にしていきたい。

(写真中)

光線治療院紹介

緑山光線治療院(写真下)

(六月一日開院)

電話

(〇四四) 九八六一五四三〇

住所

町田市三輪緑山二一六十一
交通…小田急線鶴川駅よりバ
ス五分「鶴川緑山住宅」バス
停下車徒歩二分

院長…梶原 勉氏

一言…皆さんの健康のためのお手伝いが、少しでもできればと思います。

サナモア光線治療院

の果たす役割

サナモア光線協会
医学博士 宇都宮 正範

(現)代社会はかぜをひいたらすぐ薬といった風潮にあります。が、私は、幼少から、かぜは光線療法で治していたため、長らくかぜには光線をかけるものと信じていました。そんなある日、友人にかぜをひいたから光線をかけると言ったところ、全く意味が通じません。どうして分からないのか不思議でした。家族は病気になる、けがをしたり、何かあればすぐ光線をかけるし、祖父の家には光線治療器があり、カーボンのはわが家に所狭しと置かれていました。今思うと自分は光線で育ったような気がしますが、おかげで薬を飲んだ経験がほとんどなく、薬はテレビで宣伝されていたパンシロンや龍角散くらいしか知りませんでした。(二)んな調子ですから、医師として働き始めた当初、薬が中心の現代医学には抵抗を感じました。ただ何年いれれば薬の効果を実感したし、時には、自分の処方で病気を治したような気になったこともあります。その反面、患者のあまりに多い薬を見て、どうしてこんなに必要なのだろうか疑問にも思いました。

た。ただし、これだけの薬を飲んで本当に役立っているのならいいですが、必要のなさそうな薬も入っています。また、薬の副作用のために、ならなくていい病気を患ってしまった人も見えてきました。先日、ロキソニンという消炎鎮痛剤で劇症肝炎を起こし亡くなられたという不幸な記事を読みました。が、薬は時に重大な副作用を引き起こす可能性を秘めているのです。(薬)が巷に溢れ使われた二十世紀は間もなく終わり、これから迎える二十一世紀の医療は、遺伝子治療を始め、さらなる飛躍が予想されます。それに比べ、一八九三年にニールス・フィンゼンにより創案されたカーボン・アーク灯は、完成から百年の歳月が流れました。おそらく、現

在の病院において、これだけ長く変わらずに使われている治療法はないでしょう。これから先どんなに医学が進歩し、人類の英知を結集したとしても、これだけ長期に使われる治療法を作ることとは難しく、太陽の恵みを利用した自然療法だからこそ、光線療法は百年の風雪に耐えて存在し、二十一世紀も欠かせない治療法であり続けることと思います。(サ)ナモア光線療法が、現代医学に取って代わることはありえないし、そのようなことを望むべくもありませんが、病気のけがの際の治療法として、サナモア光線療法を一人でも多くの方に認識してもらおうことが、サナモア光線治療院の果たす役割の一つであると考えます。

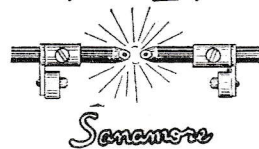
△ 警告

家庭用光線治療器「はつらつさん」は、カーボンをローラーで自動的に送り出すので、5分きざみで60分まで照射時間を自在に設定できます。この機能を支えるのが接続できるIB「サナモアジョイントカーボン」です。「はつらつさん」はカーボンの残りが6cm前後で新しいカーボンを接続しないと、カーボンがローラーからはずれ大変危険です。一方、ジョイントカーボンは無駄なくスムーズに次のカーボンに移行し、安全性を保ち、事故を未然に防ぎます。そのため「はつらつさん」にはジョイントカーボン以外のカーボンは絶対に使用しないで下さい。なお使用上の注意は、「はつらつさん」取扱説明書をご覧ください。

サナモア光線協会

はつらつさんご愛用の皆様へ

サナモア



サナモア光線協会

趣意書

サナモア光線協会は、太陽光線こそ健康を増進する自然の恵みの源泉であり、生命力を高めて病気の予防、治療に効果があるとの観点に立ち、太陽光線に近似したフルスペクトル光線を放射するサナモア光線療法の啓蒙、普及活動に努めることで、国民の健康、福祉に貢献します。サナモア光線協会は、サナモア光線療法に対する認知と評価を高めるため、一、季刊紙、「健康と光線」の発行。二、サナモアカウンセラーの募集と育成。三、サナモア光線治療師の募集と育成。の事業を行います。

サナモア光線協会

医学博士 宇都宮 光明

「健康と光線」の購読者を募集します。
また事業の詳細はお問い合わせ下さい。

〒153-0063 東京都目黒区目黒4-6-18

サナモア光線協会 TEL (03) 3793-1528
三七一-二五三三二

(本紙の無断転用を禁止します。)